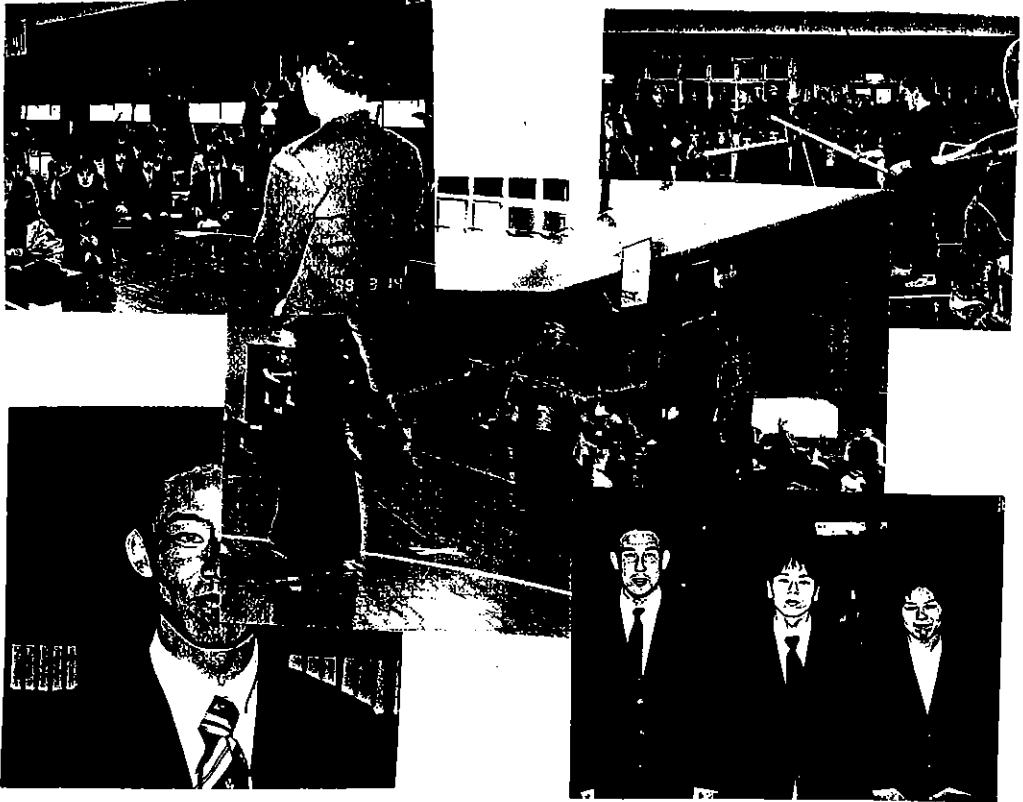


平成10年度リーダーズセミナー

IN

島根



主催：中四国学生剣道連盟

指導教官	：	境	英俊
		山神	真一
		木原	資裕
特別講師	：	竹中	健太郎
学生責任者	：	森澤	真仁
冊子編集者	：	須藤	佳奈

今回のリーダーズセミナーは
いかがでしたか？
この冊子を皆さんで読んで、
各校のリーダーたちが
今回のリーゼミで学んだ事を
是非、日頃の練習に
活かして下さい。



中四国学生剣道連盟幹事長 池原達夫

平成10年度リーダーズセミナー日程表

平成11年3月13日(土)～14日(日)
於 島根県国立三瓶青年の家

時 日	3月13日(土)	時 日	3月14日(日)
		6:30	起床
		7:00	朝の集い
		8:00	朝食
		9:00	学生審判講習会
		9:30	
10:30	広島駅集合 出発	10:00	開会式 リーダー選手権
		12:30	昼食
14:00	到着・準備	13:00	反省会
15:00	竹中先生による講話	14:00	解散
16:00	” 実技指導		
17:00	合同稽古		
18:00	自由時間 準備		
19:30	懇談会		
21:30	自由時間		
22:00			
	就寝		

竹中先生の講話

今回のリーダーズセミナーでは、特別講師として、現在世界大会強化選手として世界の剣道界で活躍されている、竹中健太郎先生をお招きして、講話・実技指導が行われました。

先生の御紹介を、簡単ですがさせていただきます。

竹中先生のプロフィール

- * PL学園 卒業
- * 筑波大学 卒業・・・剣道部では主将を務められました
- * 現在26歳 鳥取県八頭高校教諭として教壇に立ちながら、世界大会の日本代表強化選手として、トップレベルの場で活躍されています。

講話は、竹中先生を囲んで和やかに進められました。先生のお話は、次の3点についてまとめられていました。以下、先生の声を変えてまとめてみました。

◎世界大会の練習について

年3～4回 一週間ぐらいつの合宿

稽古内容：「やっとなることは、全然普通のことをやっておるわけです。」

- ・素振り（約千本）
- ・切り返し
- ・基本打ち
- ・かかり稽古
- ・合いがかり

*一日中試合だけのときもある

「剣道の練習内容というのは、昔から決められておるようなもので、あとはそれに対してどのような気持ちで取り組んでおるかが、レベルによって違ってくるといふ訳です。」

「一番大事なものは、先生にかかっていって、その先生のものを吸収していくということではないかな。」



POINT

- ①同じ稽古内容でも、どのような姿勢で取り組んでいくかが問題！
- ②先生や、自分より強い人に積極的にかかって行くことが上達の秘訣！

◎強くなるためには

大学剣道の特色・・・相手の得意技を見抜いて、それを打たせない。
(必然的に試合が長くなる)

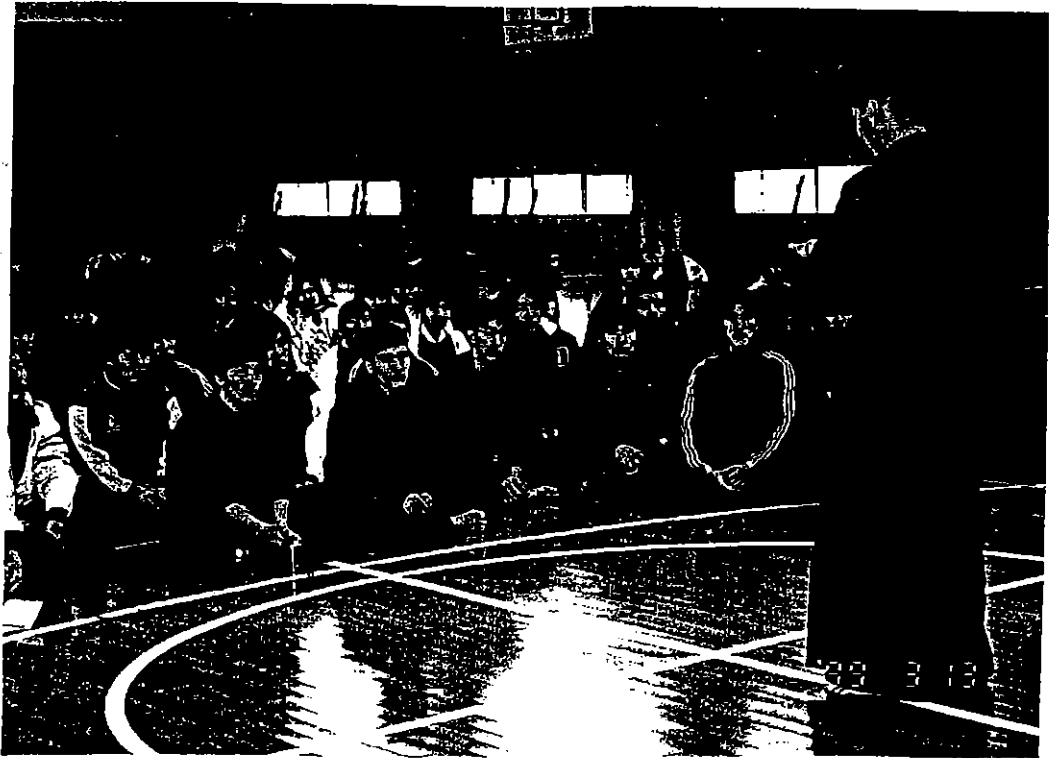
「自分の得意技以外でいかにとるか。そして、相手をよく研究することが
普段の稽古でどれくらい出来ているかということが、非常に重要なんです
ね。」

「剣道の技術というのは自分で学んで行くもんだということを教えられた
ものですが、正にそうだと思いますね。」



POINT

- ①得意技以外でいかにとるか！
- ②相手をどれだけ研究出来ているかが重要！
- ③自分でいかに吸収するか！



◎いい剣道をするために

「若いときには、若いときしか出来ないことがいっぱいあります。とにかく自分で良いと思ったことは、全部やってみようというふうに思っています。」
「少々試合のときには崩れていも、基本どうりのことが出来るというのがないと、やっぱりいけないと思います。」



POINT

- ①自分で良いと思ったことは積極的に吸収！悪いと思ったことは廃棄！
- ②やっぱり基本は大事！

※最後におねがい

「勝つはずがないと思って試合をやると、絶対に負けます。自分が意識している以上の力是不会出ないです。」
「剣道は特に、そういう精神的な部分が勝敗を左右してきますから、試合をやる時は、勝つか負けるか二つに一つしかないんですから、相手の大学がどこであろうがやったという気持ちで試合をしてもらうのが、やっぱり勝ちにつながりますね。ですから、中四国の学生剣道連盟の皆さんにも、そのような気持ちで試合にのぞんで、是非全国で良い結果を出していただけたらと思います。」

————— 以上、竹中先生の講話でした！！

ミナサン

ガンバッテクダサイ♥



竹中先生の実技指導

講話に続いて、竹中先生による実技指導が、実際に面をつけた形で行われました。今回は、ポイントを3点に絞って指導していただきました。

○素振り

「竹刀に魂を入れて振るということはとてもきついことですが、これはつまり、物打ちに力を入れて振れということです。これを素振りのときにやると、とっても効果があると思います。」

「手首を使うと、手の速度より切っ先の速度の方が速くなります。こうすると、物打ちに力が入るんですね。少々振り方に癖があっても、物打ちに力を入れることは誰でも気を付ければ出来るので、是非、してほしいと思います。」

「実戦の剣道では、刺すように打つので、手首の強さが一番重要になります。打ったとき、最後に剣先が生きてくるような使い方をしてもらいたいです。」

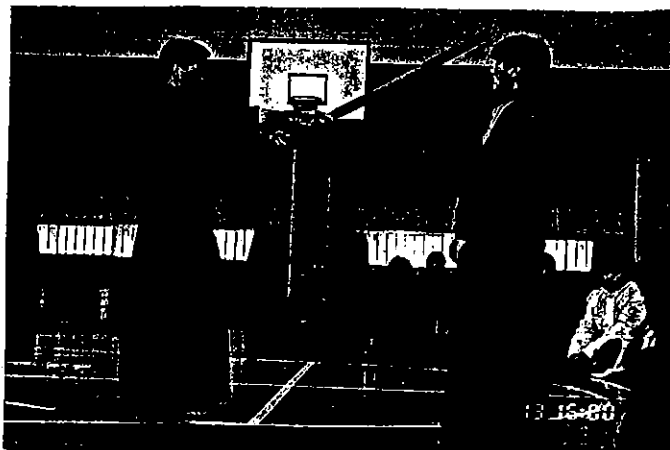
「手首が立つ人がいますが、立っていると近間でしか当たりません。最後の手首の返しで、面を打つまでの距離が3cmも4cmも違いますので、心掛けて欲しいと思います。」

「左足に気を付けてもらいたいです。左足を速く引き付けると、振りは絶対に速くなりますし、剣先のスピードも増します。」



POINT

- ①物打ちに力を入れて振る！
- ②手首を使って振る！（手首の返し）
- ③左足を速く引き付ける！



○面打ち テーマ：いかに速く・強く・良い面を打つか！

「まず気を付けることは、振りを小さくすることです。振りを小さく速くする為には、剣先を、打つ直前まで動かさないように、相手のあご先に付けて打つようにします。」

「体の方も、剣先と同様、直前まで動かさないよう気を付けます。このとき、足だけ前に進めます。」

「継ぎ足はしないで打ちます。これは、出ばなを打てるようにと、継ぎ足をするとどうしても遅くなってしまふ為です。」

「このときも、手首の強さが大事になってきます。しっかり手首を使って打つと、打ちに切れが出てくると思います。」

「出ばなを打つときは、剣先を相手の中心にぐうーっと入り込ませて、相手の打つのに合わせます。」



POINT

- ①振りは小さく！
- ②継ぎ足をしない！
- ③出ばなを打つときは剣先を中心に入り込ませて！

○出小手

「出小手で気を付けるのは、やはり打つタイミングなのですが、何処を打つかというと、相手の手が伸び切った所ではなく、手元が上がる瞬間を捉えるわけです。」

「打つとき上体はそのまんまです。よく上体を崩して打っている人がいますが、隙ができますし、自分も打てませんので気をつけたほうが良いと思います。」

「出小手を打つとき、待ってしまつてその場で打ちがちですが、自分から攻めるといふ気持ちで、前に出て打つ事が大切です。」

「その場に合わせて臨機応変に、上から打ったり下から打ったりすると、もっと幅が広がるといふ思います。」



POINT

- ①相手の手元が上がったところを打つ！
- ②上体は崩さない！前が出る！
- ③上と下を使い分け！

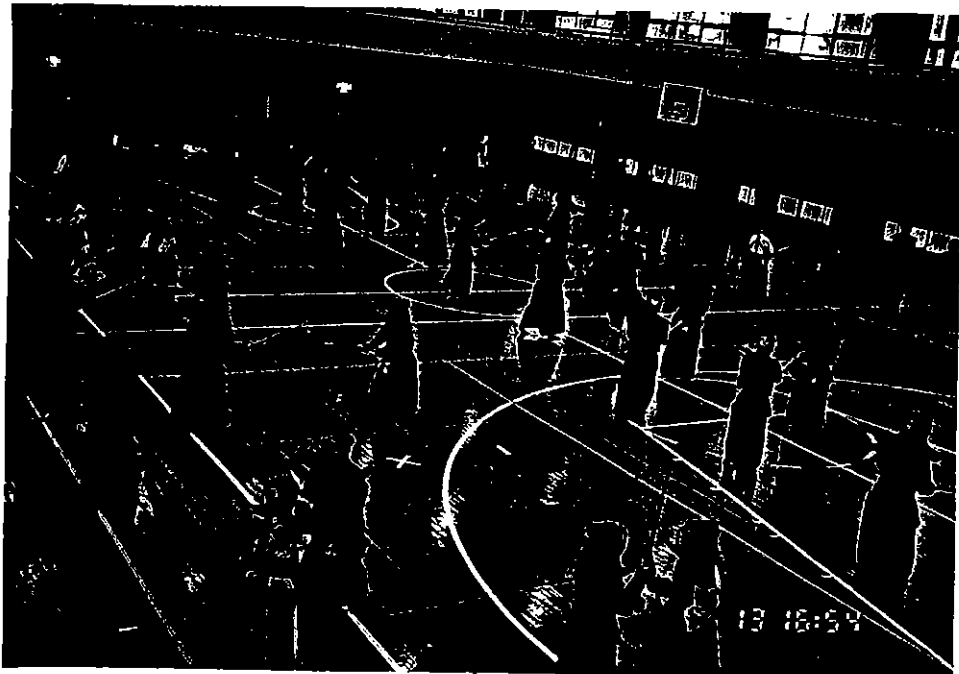
合同稽古

竹中先生の講話と実技指導のあとは、生徒同士に先生も交えて、合同稽古が行われました。日程的に時間が限られるなか、普段、試合以外で剣を交じわす機会が少ない参加者たちが、中四国の大学のリーダー達が一堂に会したこの場で、より多くの人達と稽古ができるようにという配慮から、この時間は全て地稽古に当てられました。少しでも多くの人達と稽古ができるように、一回の時間を2分と短く区切って行われました。

境先生の拍子木に合わせて、各校のリーダー達が所狭しと剣の腕を振るい合い、広い体育館の中には空気の冷たさとは裏腹に、熱い熱気と気合が最後まで立ち込めました。

今回のリーダーズセミナーでの合同稽古は、前回の反省～申し合わせ形式で、かつ時間が長すぎたため、最後の方は見ているだけの人が多かった～を教訓に、全員が常に誰かと当たるよう、列を組んでのローテーション形式（回り稽古）で行われました。そのため、むだな時間が省かれ、限られた時間を余す事なく、より多くの人と稽古することができたと思います。また、竹中先生をはじめ、先生方も列に交じって稽古をつけてくださったため、より実のある稽古ができたと思います。特に、世界でもトップレベルの先生に稽古をつけていただける機会が、このようにもうけられたことで、本当によい勉強になったのではないのでしょうか。

しかし問題点として、ローテーション形式（回り稽古）のため、自分がやってみたいと思っている人と当たることができなかったり、同じ大学同士で当たってしまうことがあったという点があげられます。また、時間が短かったため、もっとじっくりしたかったとの声もありました。この点については、日程の見直しなどが必要とされそうです。



懇親会

一日目の研修を終えて、夜は、学生も先生も入り乱れての懇親会が執り行われました。(結構、これが楽しみで来ている人も多いという・・・?)

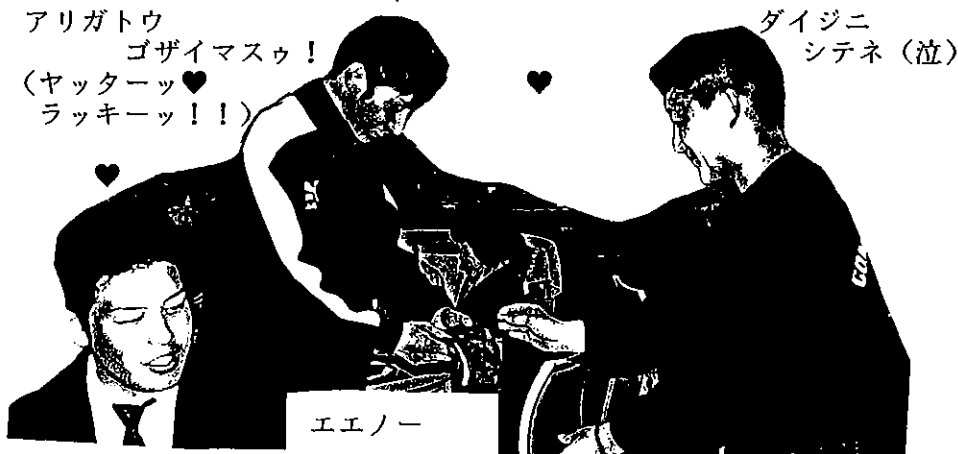
各校のリーダー達は各テーブルに座り合わせ、先生方のあいさつの後、乾杯! たくさんの料理を囲み、お酒を酌み交わして、他大学の人達とも段々打ち解け、話も弾んできたところで、待ってました! 恒例(?) 豪華 賞品が当たる、ジャンケン大会!!

このジャンケン大会は、それぞれの先生方がもって来てくださった、先生とおきの逸品が当たるという、(山神先生いわく) 超豪華 イベント大会なのです。ルールはいたって簡単。全員起立のうえ、賞品提供の先生と向かってジャンケンポン! 勝った人だけ残って、あいこと負けは着席。これを繰り返して、最後まで残った一人がWinner! 超豪華賞品を手に入れられるのです。

賞品は様々。印鑑ケース、柄革、プレミア手拭(?) があつたとおもえば、同じものは二つと無いという高級竹刀袋やカーボン竹刀から、某先生の著した剣道書 e t c. まで・・・、ホントに超豪華(!?)。



ジャンケン大会の風景



正真正銘豪華賞品贈呈のひとこま

賞品を手にした方に先生から一杯🍷

イタダキマッス!
(ナンダカ
ウレシソウ)

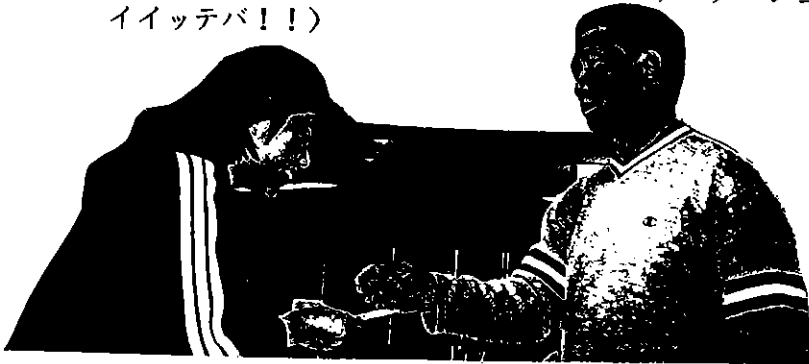


タント
ノンデクレヤー
(センセイ
タノシソウ♥)

女の子に優しい山神先生♥

ドウモアリガトウ
ゴザイマース!
(アクシュハ
イイッテバ!!)

イヤイヤ
オメデトウ!
(アクシュシヨウヨー、
ア・ク・シュ♥)



剣道家らしい礼儀正しさ

ヨウヤッタ

アリガタキシアワセー

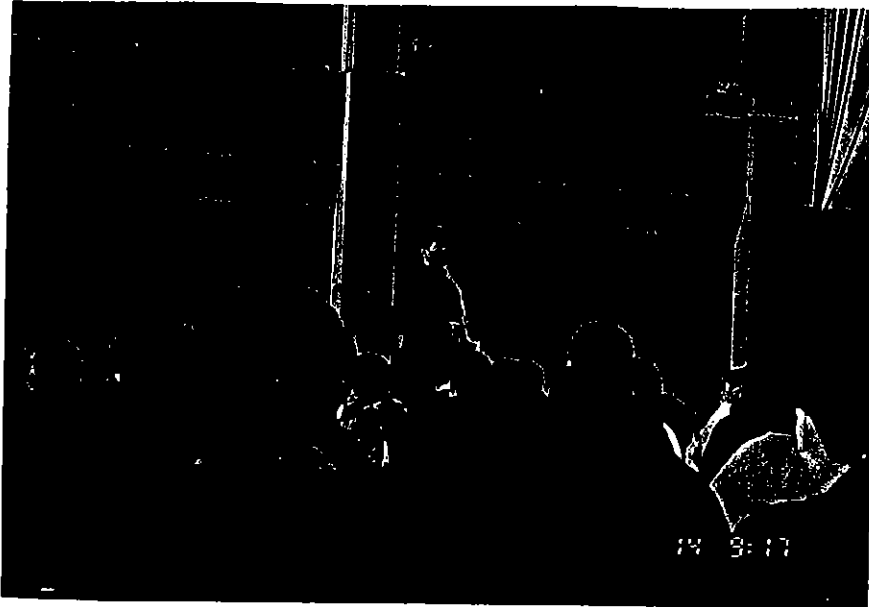


フカブカー

学生審判講習会

リーダーズセミナー、2日目。リーダー選手権に先駆けて、木原先生のご指導の下に学生審判講習会が行われました。11年4月から、審判規則・細則が多少改正されるということで、皆熱心に聞き入りました。

先生 審判について語るの図



木原先生：「試合することと、審判をすることは、表裏一体です。
うまく審判できること＝試合で勝てることにつながります。」

◎審判のポイント

- 大前提 自分が試合をしているつもりですること！
- 留意点 ①姿勢のよさ→自信につながる
②声の張り→大きな声できびきびと
③気合→集中力
④よく動くこと→ベストポジションで見逃さない
- + α 自分の間違いを訂正する勇気

学生は普段、公式の場で審判をする機会がないため、正しい審判に対する知識が乏しいのが現状です。そのため、お互いで審判をする時は判定があやふやになり、試合そのものも気が抜けたものになってしまいがちです。正しい審判の知識をもち正確に判断する目を養うことは、そのような状況を改善させられるのみでなく、試合をする側にたったとき、どのようにすれば審判の旗が上がるのかという実戦面での効果もあります。大学に戻ったら、ぜひそろって勉強してみましょう。

V リーダー選手権について

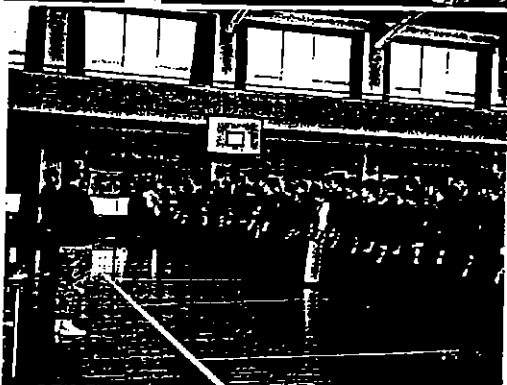
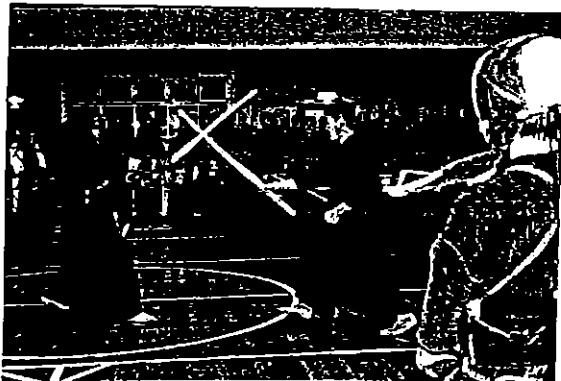
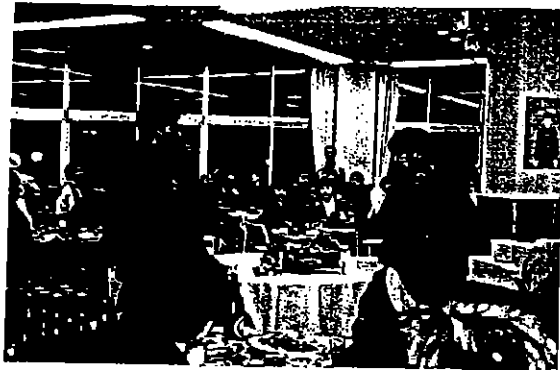
- 来る中四個人戦で、このリーダーズセミナーで学んだことを生かしたいと思っています。(松山大 武田亜弓)
- 他の大学の人とチームが組めて、良い交流が出来たと思います。(徳山大 國重道大)
- 試合の進行の仕方、特に、審判の割り振り・交代方法を明確に分かりやすくしておく、もっと早く試合が進行する事が出来たと思います。(島根大 美浪大輔)
- 他大学の方とチームを組む事で、良い点を多く学ぶことが出来ました。(広文女 松浦敬子)
- 審判の練習も出来たし、他の人の試合を見る事が出来たので良かったと思います。(岡理大 大川覚)
- 3人制はすぐに勝負がつくかと思っていたけど、結構盛り上がってすごく良かった。(聖カ女 石崎由佳)
- やはり、他の大学生のリーダーは強いと思った。三位で嬉しかった。(福平大 上原慎二)
- 各試合場にトーナメントが貼ってあった方が良いし、各コートが何コートかはっきり分かるようにして欲しかったと思う。(香川大 杉忠尚)
- こういう大会が、中四であってもおもしろいなと思いました。(川医福 服部ますみ)
- 準決勝、決勝と、レベルの高い者同士の熱い戦いが見れて良かった。彼らに追いつくよう、練習しようと思う。(近畿大 田尻裕樹)
- 私はあまり活躍出来なかったが、チームの三宅君と武田さんが頑張ってくれたお蔭で優勝することが出来た。リーゼミの中で、一番良い思い出になった。(広工大 松井真一)
- 惜しくもジャンケンで負けちゃったけど、応援も出来たし、相手の子とも仲良くなれたので面白かった。(岡山大 大瀬聖枝)
- 第2回想親会っぽくなって、親睦が深まった。(広電大 清水啓文)
- ランダム3人制トーナメントは、良い考えだと思う。(海保大 松森貴志)

VI その他

- とても楽しいセミナーでした。今回参加出来たことをとても幸せに思います。(広文女 奥瑞絵)
- かなり疲れた。でも、良い勉強になった。(福平大 亀村直史)
- ご指導下さった先生方、島根大学剣道部の皆さん、色々とお世話になりました。有り難うございました。(就実女 塚本倫代)
- このような会に参加させていただき、有り難うございました。大変勉強になり、良かったと思います。(川医福 藤原桂子)
- リーダーズセミナーに参加出来て良かったと思う。教えられたことを、後輩や友人にも教えてあげたい。(岡商大 原田史朗)
- 少し交通のアクセスが悪かったけど、自然の中という感じがいっぱいとても過ごしやすかったです。(鳥取大 澤田健二)
- 島根大学の皆さん、有り難うございました。(倉芸大 福島勝之)
- 最初は、もっとピリピリしているのかなあと想像していたのですが、部屋の人とも話が出来て、和やかな雰囲気とても楽しかったです。(山口大 田平沙江子)
- 島根大学さんの運営がとても良かったので、充実し、又、楽しいリーダーゼミになりました。(東亜大 鈴木俊考)
- 10:30に集合は出来ません。お金も余り無いので、参加自由にして下さい。(鳴教大 宮田健太郎)
- 交通機関のことを考えて欲しいです。もう少し近いところにするか、時間を

遅らして下さい。(徳文大 岡崎洋明)

- ・下関からはかなり遠かったが、良い勉強になったセミナーだった。(下市大 宮本景太)
- ・最初は気の進まないリーゼミでしたが、ここに来て色々な人と交流出来て、とても楽しかった。来て良かったです。(岡山大 大瀬聖枝)
- ・足のケガで、練習・試合に参加出来なかったのが痛かった。(香川大 杉忠尚)
- ・私は、今回初めて参加させてもらいました。すごく自分にとって為になりました。(聖カ女 石崎由佳)
- ・時間変更など分かりにくいことが何度かあり、困った。(広文女 松浦敬子)
- ・大変お世話になりました。お疲れさまでした。(福山大 淵田真悟)
- ・色々な大学の人と接することが出来、有意義な時間を持つことが出来、感謝しています。(山口大 蟹江康子)
- ・初めてのことで戸惑ったが、良い経験が出来たと思う。(就実女 安田奈生子)
- ・参加したことをとても良かったと思います。(徳文大 高山吉昭)
- ・とても楽しく練習が出来、有り難うございました。(倉芸大 澤田雅文)
- ・垂れネームを忘れました。すみませんでした。(香川大 桑島文子)
- ・このリーゼミを開いてくれた中四の幹事の皆さん、お疲れさまでした。(広島大 芳地敦子)
- ・このような機会を設けていただき、本当に有り難うございました。これからも、中四国の学生剣道がますます発展して行くよう頑張ってください。(岡山大 三宅聡史)
- ・島根大学さん、お疲れさまでした。(徳山大 藤原初美)
- ・連絡が曖昧に感じた。(東亜大 大道良樹)
- ・場所が遠い。(下市大 国広健一郎)



【会場について】

昨年の徳山大学でのセミナー終了時に、会計顧問の石井博貞さんより平成10年度のセミナーを島根県内で開催してくれないかという依頼がありました。これまでのセミナーが瀬戸内海側で実施されており、交通の便が悪い島根で行うことは如何なものかという思いがあり一度はお断りしましたが、是非にという要請によりお引き受けしました。

会場を決める際の条件として考えたのは、①剣道に専念出来る環境であること②安い経費で実施出来ることの2点でした。そういう点では今回の国立三瓶青年の家は職員にも剣道経験者がいらっしや、剣道への理解があるということからも最適の場所だと考えセミナー開催の場所に決定しました。

【講師について】

会場を引き受けたときから講師は竹中健太郎先生しかいないと考えていました。選手としては次回アメリカにおいて開催される世界選手権大会の候補であり、指導者としては八頭高等学校をインターハイや選抜大会に出場させ、更には、筑波大学時は主将として活躍されたという経歴の持ち主であり、今回の講師には適任と考えました。

【講習内容について】

竹中先生の講話・実技講習とも現在の世界のトップレベルの技術を肌で感じる事が出来たのではないかと思います。個人的には剣先を相手の中心から外さず、如何に合理的に面を打つかという点で非常に勉強になりました。経験的に理解しているものの、実際にやってみると言われるとなかなか出来ないものです。是非それぞれの大学での稽古に生かしてもらいたいと思います。

【懇親会について】

山神先生の企画により、講師が持参した賞品を懸けてのジャンケン大会はとても盛り上がりを見せたと思いますが、やや時間が短かったような気がしています。

【選手権大会について】

昨年に引き続いて3人制の団体戦を実施しましたが、前回よりも3人のチームワークが良く、試合内容もレベルアップしたと思います。代表者戦をジャンケンにしたことも盛り上がった要因だと感じました。

【反省】

- ①交通の便が悪かったためにバスでの移動を余儀なくされた。その為初日の講話・実技指導の時間が短すぎた。学生同士での稽古はかなり出来たと思いますが、先生方との稽古があまり出来なかった。今後の課題。
- ②青年の家ということで色々な制約があり、特に懇親会終了後の時間の過ごし方に不満が残ったのではないかと。しかし、翌日二日酔いの学生はいなかったように思いますので、その点は良かったのではないのでしょうか。
- ③選手権大会の試合時間3分、代表者戦はジャンケン。時間の都合でこのような内容になったが、その点は如何？
- ④会場は？

担当校として十分なことができず、申し訳なく思っています。今回のリーゼミの反省をもとに、来年度以降が更に充実、発展することを願っています。

第6回中四国学生剣道連盟リーダーゼミ（島根）を終えて

香川大学 山神眞一

中四国学生剣道連盟の第6回リーダーゼミが島根県三瓶の麓にて3月13（土）・14（日）の二日間行われた。島根大学さんが主管となって、大いに盛り立てていただいた。広島からバスで約2時間、自然環境に恵まれた、合宿にはもってこいの場所でした。今回も中四国の大学の殆どが参加し、総勢100名ほどの研修会となった。6回目になり研修会が定着したことを思うと、第1回目から関わってきた一人としては、感慨深いものがある。

初日は、竹中健太郎先生による講話と実技指導があり、現在世界選手権の候補選手として活躍している先生だけに、学生の興味・関心度も高く、聞き入っていた。又、実技指導では、試合を想定した効率的な面の打ち方を中心に指導願った。その成果はみるみるうちに現れて、私たちも感心して見させていただいた。体育館いっばいに響く掛け声と竹刀の音は、さすがリーダーの集まりだなと思わせるほどであった。

夜の懇親会は食堂で行われたが、講師の先生方から賞品を出していただき、大ジャンケン大会を実施した。大いに盛り上がったが、時間が短かったことと、ビール量も少なかったことが悔やまれる。そして、翌日の3人制試合のメンバーも懇親会で発表すれば、もっと盛り上がったようにも思われた。ある意味では、この懇親会を楽しみに来ている学生たちも多いことから、来年での一考の余地がある。

2日目の3人制のリーダー選手権大会は今回で2回目となるが、日頃知らない大学の者同士と一緒に試合をするのは、非常に意義があるように思われた。事実、それ以後お互いに話しやすくなったとの感想も出ていた。

全体的にスムーズに進んだと思う。これも、島根大学の境先生、並びに剣道部員の皆さんのサポートのお蔭だと思っている。主催者としての学生役員も、良くやってくれたと思う。ただ、反省点としては、リーダーの研修会ということで、もう少し各自が積極的に運営したり、参加する態度が必要だという印象を持った。手順が悪く、進行があやふやな点も見られたので、次回への課題として生かしていただきたい。中四国学生剣道連盟にとって、この研修会は大きな意味を持つものになっており、みんなの力でより充実したものにしていきたいものである。

「自分で学ぶ」ということについて

鳴門教育大学 木原資裕

第6回リーダーズセミナーが、島根大学の境先生と剣道部の皆さんのきめ細やかな御配慮と御援助をいただき、自然豊かな国立三瓶青年の家で充実した内容で無事終了したことを、ともども喜びたいと思います。

今回は、特別講師に世界選手権の候補選手でもある竹中健太郎先生（PL学園・筑波大卒、鳥取東高校教諭）に来ていただき、講話と実技指導をいただきました。その中で、私が驚いたことの一つに「剣道の技術は自分で学ぶもの」との指摘がありました。何かと指導してくれる師匠を持つことはもちろん大切なことであると思いますが、最も肝心なことは、「自分で学ぶこと」にあるということです。「教えてもらう」のではなく、「自分で学ぶ」こと。このことは、人生一般にも通じるかも知れませんが、特に、私たち大学剣道部で剣道を行う者にとって、大いに意識すべきことであると思います。この「学ぶ」ことは、視点を変えれば、「気づく」「悟る」ことにもなるでしょう。どんな小さなことでも、剣道に関して、気づいたり、ささやかな自分なりの悟りが出来るならば、剣道することが楽しくやり甲斐のあるものになると確信します。

又、竹中先生の実技指導の中で「素振りを物打ちに魂を入れるつもりで行う。」「左足を早く引き付けると素振りが速く鋭くなる」ことを実演しながら話してくれましたが、まさに、日常的に私たちが意識せずに行っていることを、改めて、意識して行ってみると、私自身、素振り自体に楽しみが出てくるような気がしました。

このリーダーズセミナーを考えたとき、大切なことは「自分で学ぶ」ことに尽きるのではないかと思うのです。もちろん、幹事長をはじめ、たくさんの人々の努力によってリーダーズセミナーが成り立っていますが、参加するリーダーに「学び」「気づき」「悟り」が無ければ、このリーダーズセミナーの実質的な成果は無いと言わざるを得ないでしょう。そのためにも、リーダー各自が、豊かな感性と学ぶ姿勢を持ってこのリーダーズセミナーに集う必要があります。

参加するリーダーの顔付きが良いと言えるようなリーダーズセミナーになって欲しいと祈念しています。

リーダーズセミナーを終えて

企画部長 森澤真仁（香川大学）

今回、島根県国立三瓶青年の家に於いて、2日間の日程で（実際は、1日しかなかったけれども。）行われました。広島駅からバスで3時間余り、バスは、どんだん山奥に……。3月中旬だというのに、山には雪が積もっているし、人気や民家はなくなり、隔離されたのかと思いました。しかし、ここで出されるご飯はおいしく、また、目覚めが快適でした。剣道をするにはいい環境でした。

場所が場所だけに、懇親会の時間が短かったり、あわただしいスケジュールでしたが、筑波大学を卒業され、現在鳥取県の中学校に勤められている竹中先生を講師に迎え、実技指導では、打ち方、とくに面と出小手を中心に教えていただき、講話では世界大会や、宮崎選手と対戦したときの話をしてくれました。また、竹中先生と懇親を深めることができ、とてもためになるいい経験ができました。

合同稽古では、互いに日頃培った技量や体力をぶつけ合うことができ、自分よりも強い人、稽古をしている人が数多くいるということを改めて痛感させられました。

また、他大学の剣道部の状態や、悩みや、おもしろい話をすることによって交流が深められたと思います。どこの大学も同じような悩みを抱えていることがわかり、来年のリーダーゼミでは、こういった悩みを各大学が話し合っ、討論することができたらいいなあとと思いました。

今回のゼミナールで得たことを集まったリーダー達が各大学の稽古に生かしてもらうことにより、これからの中四国学生剣道連盟の発展に期待出来ることと思います。

最後になりましたが、平成10年度リーダーゼミを無事終えることができたのは、ご指導していただいた先生方をはじめ、島根大学剣道部の皆様の格別のご尽力のおかげです。本当にありがとうございました。